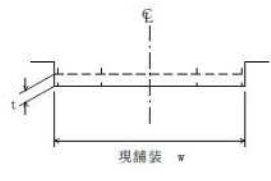
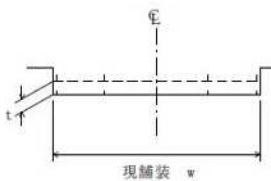
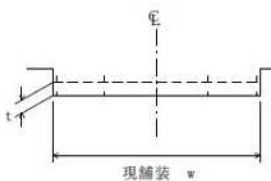
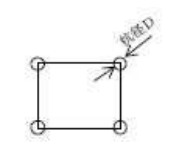
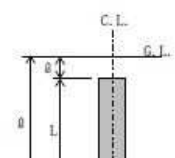
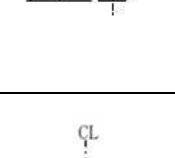
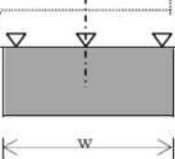
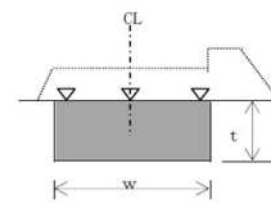
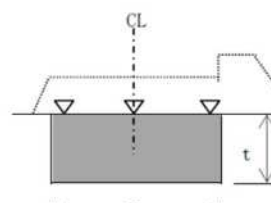
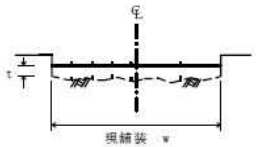
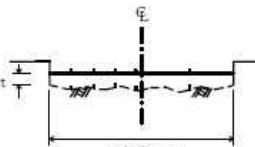
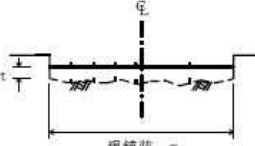


出来形管理基準新旧対照表

現行										改定										改定理由				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	概要	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	概要	
							個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X10) *面管理の場合は測定値の平均											個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X10) *面管理の場合は測定値の平均				
3	2	6	15		路面切削工	厚さ	-7	-2	厚さは10m毎に現舗装高切削後の基準高で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。測定方法は自動横断測定法によることができる。			3	2	6	15	1	路面切削工	厚さ	-7	-2	厚さは10m毎に現舗装高切削後の基準高で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。測定方法は自動横断測定法によることができる。			
						幅 W	-25	-								2	路面切削工 (面管理の場合) 標高較差または厚さ t のみ	厚さ t (標高較差)	-17 (17) (面管理として緩和)	-2 (2)	1. 施工履歴データを用いた出来形管理要領(案)(路面切削工編)に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差を算出する。計測密度は1点/m ² (平面投影面積当たり)以上とする。 3. 厚さ t または標高較差は、現舗装高切削後の基準高との差で算出する。 4. 幅は、延長40m毎に測定するものとし、延長40m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。			諸基準類の改定に伴う
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	概要			
											3	2	7	9	2	固結工 (スラリー攪拌工)	基準高 ▽	0以上	杭芯位置管理表により基準高を確認			諸基準類の改定に伴う		
																	位置	D/8以内	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置管理表により設計杭芯位置と施工した杭芯位置との距離を確認					
																	杭径 D	設計値以上	工事毎に1回 施工前の攪拌翼の寸法実測により確認 (掘起しによる実測確認は不要)					
																	改良長 L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設結果表により確認 (残尺計測による確認は不要)					
3	2	7	9	2	固結工 (中層混合処理)	基準高 ▽	設計値以上	1,000m ³ ~4,000m ³ につき1ヶ所、又は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。1,000m ³ 以下、又は施工延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は不要)。			3	2	7	9	3	固結工 (中層混合処理)	基準高 ▽	設計値以上	1,000m ³ ~4,000m ³ につき1ヶ所、又は施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所。1,000m ³ 以下、又は施工延長40m(50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。施工厚さは施工時の改良深度確認を出来形とする。「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」による管理の場合は、全体改良範囲図を用いて、施工厚さt、幅w、延長Lを確認(実測は不要)。					
						施工厚さ t	設計値以上										施工厚さ t	設計値以上						
						幅 w	設計値以上										幅 w	設計値以上						
						延長 L	設計値以上										延長 L	設計値以上						

出来形管理基準新旧対照表

現行										改定										改定理由				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値		測定基準	測定箇所	摘要	
							個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X10) *面管理の場合は測定値の平均											個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X10) *面管理の場合は測定値の平均				
10	14	4	5		切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2	厚さは10m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	10	14	4	5	1	切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2	厚さは10m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	
						厚さ t (オーバーレイ)	-9																	
						幅 w	-25																	
						延長 L	-50																	
						平坦性	-	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下																
											10	14	4	5	2	切削オーバーレイ工 (面管理の場合) 厚さ t または標高較差 (切削) のみ	厚さ t (標高較差) (切削)	-17 (17)	-2 (2)	1. 施工履歴データを用いた出来形管理要領(案)(路面切削工編)に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 計測は切削面の全面とし、すべての点で設計面との厚さ t または標高較差 (切削) を算出する。計測密度は1点/m ² (平面投影面積当たり) 以上とする。 3. 厚さ t または標高較差 (切削) は、現舗装高と切削後の基準高との差で算出する。 4. 厚さ (オーバーレイ) は40m毎に「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。 5. 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。	諸基準類の改定に伴う	
																	厚さ t (オーバーレイ)	-9						
																	幅 w	-25						
																	延長 L	-50						
																	平坦性	-	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下					

写真管理基準新旧対照表

現行										改定										改定理由
編	章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要	編	章	節	条	枝番	工種	写真管理項目			摘要	
						撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度								撮影項目	撮影頻度〔時期〕	提出頻度		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	1	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径	1施工箇所 に1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚		3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	1	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	位置・間隔 杭径	1施工箇所 に1回 〔打込後〕	代表箇所 各1枚		諸基準類 の改定に 伴う
						深度										1施工箇所 に1回 〔打込前後〕				
																ただし、(スラリー攪拌工)において、「施工履歴データを用いた出来形管理要領(固結工(スラリー攪拌工)編)(案)」により出来形管理資料を提出する場合は、出来形管理に関わる写真管理項目を省略できる。				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	2	固結工 (中層混合処理)	施工厚さ 幅	1,000m ³ ~4,000m ³ につ き1回、又は施工延長 40m(測点間隔25mの場 合は50m)につき1回。 〔施工厚さ 施工中〕 〔幅 施工後〕	代表箇所 各1枚		3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9	3	固結工 (中層混合処理)	施工厚さ 幅	1,000m ³ ~4,000m ³ につ き1回、又は施工延長 40m(測点間隔25mの場 合は50m)につき1回。 〔施工厚さ 施工中〕 〔幅 施工後〕	代表箇所 各1枚		諸基準類 の改定に 伴う
																ただし、「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)」により出来形管理資料を提出する場合は、出来形管理に関わる写真管理項目を省略できる。				